

1. 件名：「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-78)、
廃棄物管理施設(53))」

2. 日時：令和5年7月27日(木) 15時10分～17時05分

3. 場所：原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

長谷川安全規制管理官、古作企画調査官、岸野主任安全審査官、田尻主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、上出安全審査官、武田安全審査官

日本原燃株式会社

決得 執行役員 再処理・MOX 設工認総括副責任者 他2名

九州電力株式会社

テクニカルソリューション統括本部 土木建築本部 副本部長

三菱重工業株式会社

原子力セグメント 安全高度化対策推進部 主幹プロジェクト統括
株式会社大林組 原子力本部 設計第一部 担当部長

東電設計株式会社 土木部 耐震技術部 担当職

5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年7月20日の提出資料に基づき、以下の事項について確認を行った。

- ・追加ボーリング調査の計画

(2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。

- ・調査位置については、追加するよう計画を見直しており、改めて整理して説明する。また、調査位置の選定の考え方や写真等での周辺状況の説明を拡充する。

- ・調査方法については、その選定理由や得られる結果の物理的な意味を明確にしたうえで、複数種類の結果をどう扱う考えなのか説明する。

- ・調査工程については、表層地盤及び微動観測の追加調査項目の工程を含め、

最新の情報を提示する。

6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

7. その他

提出資料

なし

参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」
https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html
- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）
「日本原燃（株）から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」

https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html

- ・ 令和5年7月20日
「日本原燃(株)再処理施設、MOX 施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	徘徊しました。
0:00:03	規制庁の竹田です。それではただいまから日本原燃とのヒアリングを開始します。
0:00:09	本日のヒアリングは、令和2年の12月に申請があった、再処理施設及び廃棄物管理施設の設工認について、4月20日に提出があった資料を基に事実確認を行うものになります。
0:00:22	まず規制庁側の出席者紹介いたします。本庁側から、キシノハバサキ。
0:00:30	ウェブから、古作調査官、カミデ、タケダ以上になります。
0:00:36	それで日本原燃の方から出席者の紹介と、それぞれの役割、それ本日のヒアリングでの説明範囲と達成目標について説明をお願いいたします。
0:00:52	はい。日本原燃のオガセでございます出席者につきまして本日は日本原燃のオガセの方からご説明いたします。本日の出席者でございますが日本原燃より、ケツクノモトオガセ。
0:01:03	あとは九州電力からアカシ様、東電設計の竜野様、三菱重工よりサトウ様大林組より和田様。以上の斜めが参加してございます。
0:01:14	特に六ヶ所側からの発言の予定はございませんので、東京、今のご紹介の斜めで以上でございます。
0:01:23	日本原燃の郷でございます。本日のヒアリングでのご説明事項でございますけれども、追加ボーリング調査の計画についてということで、ボーリング調査によりまして減衰及び表層地盤の物性の設定、
0:01:38	補完するデータを取得していくということで、この具体的なですね調査計画について、平塚に提出させていただいた資料をもとに、ご確認いただくということでございます。
0:01:54	それではよろしければもう御説明入らしていた座
0:01:59	言ってよろしいですか。
0:02:01	はい。規制庁竹田です。それでは説明に入る前に何か規制庁側から確認はございますでしょうか。
0:02:09	規制庁ハバサキです特に本庁がありません。
0:02:13	はい。規制庁武田です。わかりました。それでは日本原燃の方から説明をお願いいたします。
0:02:19	はい。日本原燃の郷でございます。それでは7月20日提出させていただきました追加ボーリング調査の計画についての資料に基づきまして、今日はご確認いただくということで、

0:02:31	これもご提出しておりますので逐次読み上げることはせずにざっとですね、この構成等書いているかということのご説明と補足事項あれば点についてお話をさせていただきたいと思います。
0:02:47	それではですね一番目的のところではですね、これ決算計算による方法については現在参加者のみで実施されているので、この下部の向上を目的として追加調査を実施するというこの位置付けについて述べております。
0:03:05	とですねここでですね、表層地盤に関するデータ追加について、実はこの1ポツ目的特にここでは触れておりませんで、これ構成といたしましては、25ページの4ポツの方、
0:03:18	その他調査権、こちらの方で、表層地盤に関するデータ追加の計画について述べてございます。表層に関するですねデータ追加に関しましては、
0:03:31	これはですねぜひそのボーリングちょっと進めながらですね、当地点等を確定していきたいということでちょっと今具体的なこの地点の内容についてこの資料にはちょっと盛り込めていないんですけども、ちょっと後程そこの今後の見通しについて補足させていただこうと思います。
0:03:47	まず一つはそういうところでちょっと書いてございますんで、2ページ目の青いポツのところは追加調査の項目ということで、ボーリング孔内の係数測定の検討とそれから岩石コアを用いた試算試験と、二つを広域していくという項目のことについて説明してるものでござい
0:04:06	3ページ目からがこの実施計画の部材についてご説明しておりまして、3ページ目の(1)ボーリング来さ域のこの追加でボーリングを掘るの追加について、どのような観点で、を追加したのかということとどこに対して追加するのかと。
0:04:25	あとボーリング孔を選定したことによる、このですね、実際に岩種ですね、網羅性といったところを整理しているものでございます。
0:04:36	それで、この防止共済金につきましても、これ、お出ししてから、もう少し追加できないのかという観点での検討を進めておりましてこの点も、ちょっと後程補足をさせていただこうというふうに考えてございます。
0:04:52	それからですね、
0:04:57	次14ページ、両括弧2のところから調査方法についてのご説明でございます。こちらからですね、こちらからはですね、PS検層の測定方法費用の説明と、それから抜き打ちの評価制御。
0:05:12	これは舞台に使用伸びているものでございます。

0:05:17	17 ページ、あ、すいません。江藤そうですね、14 ページのEのポツ、構内検査によるQ値測定今回ですね、17 ページのbポツ、室内岩石試験のところからこれはですね越田イワサキ試験の仕様と手順。
0:05:34	を述べてございまして、この後両括弧医療括弧でございまして、この後ですね両括弧Cで、両括弧診療括弧で両括弧医療括弧Fですね、
0:05:45	それぞれですね大気圧下におけるQ値測定負圧下におけるQ値測定、それからスペクトル、
0:05:53	スペクトルをプラスライズタイム高ということで、それぞれの紐による測定ですね投資用と手順と
0:06:02	で、
0:06:03	ございます。
0:06:05	で、で、
0:06:06	肋骨が先ほど申し上げましたように表層についての研究をしております、それから 26 ページ目、ここで予定工程というところで、最後ですね 12 月までの
0:06:19	予定で採取して参りまして、2024 年 1 月に総合検討という形で最後、
0:06:26	終わるような予定を組んでいるというところでございます。
0:06:30	この資料についてのご説明は以上でございます。で、衛藤ですね、ボーリングの追加の今のちょっと検討状況について詰めて尾野さんから補足をさせていただくと、
0:06:44	はい。トータル設計のものでございます。この資料につきましてはですね、5 ページを見ていただきますとですね、
0:06:53	企業青で書いてございますが、これ自身観測孔でございまして 3 校ございまして、その他にですね、赤で書いてございます 8 校ですね。
0:07:04	当初設定しておりました。当初設定しておったんですが、今回ですね、やはり対象とするですね建屋に対してですね、
0:07:14	この辺のですね地震、減衰の方をですね明確にするということで、
0:07:20	これで見させていただきますとですね、
0:07:23	R5 のQ3 というですね、一番下にある、ボーリング、ボーリングですがここ実際に建屋等がございませんので、これをまず一つさせていただきたいと。
0:07:37	ということでこれを外しました。それでですね追加をですね、ゴコウ、
0:07:43	今のところ考えてござい
0:07:45	まず一つはですね、リエータピア、この真ん中ぐらいなんですが、PA建屋のですね、ちょっとこれ書いてないんで

0:07:54	DA建屋も北側にですね、一つ、
0:07:59	ボーリング孔のボーリング孔、ボーリング調査をください。
0:08:04	あともう一つがですね、経営建屋の横ですね、北関東のところなんです が、の下の方ですけども、そこにもう一つ入れます。
0:08:16	あとですね、ここで言いますと、FAた提案ですね。
0:08:21	東側。
0:08:22	ここで言うとちょっと黄土色で書いてあるところなんですけども、ここに一 つ入れます。
0:08:30	あとですね、平和PAの周辺にですね、もう一つ、
0:08:35	置きたかったんですけども、
0:08:39	ピーエイのですね、
0:08:41	西側ですねこれヒガシ地盤表層ホアシヒガシ地盤なんですけども、実際 地質図を見ましたらですね、話になっておりまして、中央地盤が入ってき てしまいますので、ここPAのですね
0:08:55	に、東山です。東野。
0:08:58	北東側ですか、に1個。
0:09:01	あとですねG-14、G-36という、ヒガシヤノ、かなり離れた方にあるん ですけども、そんなもんで、ここについてもですね肉を取りたいというこ とで、今のところをこの2行を足すことにしております。
0:09:17	で、当初ですね8行追加ということでしたのが、現在ですね、12個追加 ということで、季節を合わせて15、
0:09:28	いうことで、今のところ計画をさせていただいております。西。
0:09:34	西井は、今、
0:09:35	既存と合わせて二つということで、
0:09:39	青ですね。
0:09:41	どれか。
0:09:44	すいませんこれ書いてないもんですから、どっか書いてない。書いてな いんですね。
0:09:50	ここにこの三つが、既存の行ですね。そうです。
0:09:55	これも二つ、こいつはちょっとSE部さんのキムラってさ、
0:10:02	どうですか。うんオダしちゃったらこいつですか。これはまだあります。地 震研が入ってます。それ、だからそこをもうだからもう1回、
0:10:10	やるの。
0:10:11	とる。

0:10:12	ここは 200 メーターまで入ってとる、とらない。観測は、データとしては取れてます。取れていて、これから取るのか。それを確認しましょう。だから掘らずに、はい。新規持ってきて、
0:10:26	データレイだけなんじゃないのこれ。そうですね。だったらや、やるべきだろう。
0:10:32	ちょっと待ってからご発言を麻生安全設計の方でございます。
0:10:39	とですね
0:10:42	とですね、すみません、今軽々しく言ってしまったんですけども、先ほど言ってますバイブレーター震源の、
0:10:51	スweep振動でとってますので、通常のPS検層みたいな形で振動を与えてと。
0:11:00	ていう、
0:11:01	他の取り方が、Q値測定というか、PS検層、
0:11:06	という形ではとれるかと。
0:11:09	ちょっとそれは相談しています。はい。
0:11:15	支店長なんですハセガワですけど、地震計の向き問題向きというか、えっとですね入ってる地震計が入ってるそうです。地域が入ってますで、今地震計 3 方向、水平 3 方向、水平 2 方向と鉛直 1 を、
0:11:29	入ってます、実際に今これ図ろうとしてるのが、速度計なんですね。
0:11:34	入ってるあれがですね地震の地震計なもんですから。うん。それでちょっと先ほど言いましたちょっと私の判断では、取れるか取れないかがちょっとわからないもんですから、
0:11:45	それは下部モンマってそうですね。はい。せっかくせっかく書いてるんだから、
0:11:51	もう 1 回、はい。
0:11:55	同じ。
0:11:56	形で取るとというのは、検討の余地はあると。
0:12:01	ちょっと相談をする。
0:12:04	長関野でございますが、ちょっと試験業者の確認をしております。
0:12:11	規制庁浜崎ですけども今既存の地震計の話が出たんですが、5 ページの図令和、既存の地震計はプロットされてない。
0:12:23	5 ページは、このJT、NTT、
0:12:27	違う、違う、違う、神経が入ってこれたら、さあ件数を昔やったところ、ここは申し上げます。これは、その検層ですね。すみません。
0:12:40	地震計は地震こう入ってません。はい。

0:12:43	ただ、この規制庁、武井須田近傍に確かありますよね。イシイのがありますので、
0:12:51	今年、
0:12:51	はい。そうです。
0:12:54	こともおられるところですね。はい。はい。
0:12:57	すいませんそれ自己そうですね、規制庁、地震計の位置もをプロットしてもらいたいというのと、あと、先ほどの話の、その既存の地震計が今回のPS検層追加に使えるのかどうか。ごめんなさい。僕はそういう、
0:13:14	過去やったS波検層した穴は残ってるんですか。
0:13:19	そうすると、今のをかけているんですね。はい。はい。はい。当然世間のものでございます。東京のですねS波検層。
0:13:30	向こうはですね、全部以降、埋めてしまってますね。
0:13:36	新しいものはございません。ですから先ほどのデータを使うしかない。
0:13:41	そこもあるものしかないということで、先ほどありました地震計については、このようにちょっと確認をいたします。はい。
0:13:50	はい。そうずっと今 5 ページの青の丸三つはこれは、
0:13:54	今、自治体は使えないという、
0:13:57	そう。すいません。申し訳ございません。そうするとやはり足りない。そこから辺わかるように、説明をしております。ちょっとハセガワですけど、足りないというよりも、
0:14:07	多分、過去のS8 検層の火力の仕方と、今回は少し違うよねっていう
0:14:15	二部、
0:14:17	そういう、
0:14:19	あるけれども、それから同等に、
0:14:22	評価にして大丈夫ですかっていうそういうことだと思うんだよね。
0:14:30	同じものとして、最後に評価結果を並べるときに、何かこう、鼻腔つきみたいになっちゃうのか、そのデータの見方に差が、
0:14:42	出るのかどうかという、要するに、並べて、
0:14:47	平均を取るにしろ、違った加力が出た、出てきたデータ増資を取り扱いについては、検討して何かするっていうことだと思う。
0:15:00	はい。当然設計の方でございますが、業者間の干渉くうの方々から聞きますと、昔やってたと。
0:15:09	今回のそのスイープ加振ってやつはですね、15 年ぐらい前に大幅に変わって、それで劇的にその計測方法が変わったって言ってますんで、ちょっとその辺で、

0:15:20	どこまで前回のデータが使えるのかっていうところも確認させて、矢田で、前回のてか、規制庁のハセガワですけど、前回のデータはデータで、
0:15:30	使えず、だから、そのデータとしては、生きてるんだと思うんだけど、ただ火力とかいろんなそういう違いがどうしても出てくるから、
0:15:41	同じ土俵の中で同じように取り扱っていいのかっていうのは、検討をちゃんとしてもらわないといけないんじゃないですかっていうそこはちゃんとしっかりしといてくださいねっていうそういうだけ。
0:15:55	データを使っちゃいけないとかっていうことではなくて、やっぱり全然違ったか立入でのデータの分析とか、そういうことになるんだよね。
0:16:07	はい、藤堂政権も、
0:16:09	承知いたし、
0:16:14	沢口です今パンプ、追加観測位置についての説明があったんでそれに関してちょっと何点か、
0:16:22	こちらから確認をしたいんですけども、まず、資料としてですね現時点でトータルで12ヶ所、
0:16:32	132ですね、12ということで、大きな依存はないんですけども、ただ、この図面だけですとやはり周辺、或いは
0:16:42	チョーカー等の条件がわからない。要はその隣接の建物があるのかとか、道路があるのかどうか、周辺、その大きな不陸がないのかとかですね。
0:16:53	そういう情報も含めてですね、最終的な位置というのは決まるというふうに思っていますので、ちょっと写真等を、
0:17:01	或いは図面等でですね、進めて、それぞれについて説明をしてもらいたいと思います。
0:17:07	これは準備シートは当然設計のようでございます。その辺の準備をですね、いたします。はい。はい、規制庁浜崎です。特に建屋の近傍といいますかですね大きな構造物の近傍っていうのは、
0:17:20	結構減衰が大きめに出るといようなアノサトウさんの論文もありますので、適切な距離が
0:17:27	ちゃんと確保できているのかとかですね、そういう観点もありますので、この観測点周辺の状況については、きちんと情報、説明をしてもらいたいと思います。
0:17:39	はい当然設計のものでございますが、現地を確認したところですね、あまり建屋の方に近づいてるというふうなものはないということで、

0:17:49	ある程度の輪郭はとってるということを確認し、
0:17:56	詳細に、
0:18:02	はい。簡素規制者岡崎です。観測位置については、私からは以上ですけれども、規制庁河田
0:18:14	清町の岸野です。
0:18:17	ゴトウでご説明があった追加も含めても、
0:18:21	向こうも含めてやったんですけども、
0:18:24	4 ページ、2、今回の計画、
0:18:29	やりますので、
0:18:31	というような、
0:18:32	ショウガン、こちらこの趣旨の障害にするところというのは、
0:18:41	高岡薄井。
0:18:43	各岩種ごとにですね。
0:18:45	この時点で確認できますよ、それはグループ、蒔田柚葉件数、マキグチを測定できるのはここですよっていったことを、説明されて、
0:18:57	必要な、来週のこれ、この 8 点及び口頭で説明であった追加時点での
0:19:05	できますよということをお願いしたいのかなと思うんですけども、
0:19:10	ならない。
0:19:12	あります。
0:19:14	岩種ニイツ件数が下がって、
0:19:19	例えばこの表の右から、
0:19:22	3 列ですね。
0:19:25	ですね、DSPDDFPといったところは、これそれぞれの場所で、また、
0:19:35	実は、
0:19:36	井内と美馬ということだと思う。
0:19:39	ですけれども、
0:19:41	それ以前側の地点を見ますと、
0:19:49	17、これ全部東側地盤ですよ。
0:19:53	ということになります。
0:19:55	左の前提で 340 名、PFSこれは各 3 地点で確認するんですけどもそれぞれ、
0:20:04	1 これも中央地盤の 3 地点という
0:20:08	なるのかなと思いました。

0:20:10	この辺り実際のバランスとしては、東側だけじゃなくて、1 オオニシとかにも減とするのかもしれないんですけど、
0:20:20	そういった
0:20:21	ヒガシがずれております。中央だけで取りますっていうような、勝てない。
0:20:28	満遍なくというのかそれともともとそういった事業内でヒガシが存在しない。買収は問題ないですよ。そういった、
0:20:42	はい。当然設計の方でございます。この表の見方はですね、実際に岩石コアの試験に、
0:20:51	供するサンプリングをとるために、
0:20:54	今、各ボーリングでどの岩種があるのかっていうのをですね、確認しております。で、実際に前にもご説明してるんですが、
0:21:04	トガシも岩種ごとに分類して、それらの力学特性を評価すればいいというふうなことでですね、基準に基づいて設定をしておりますので、
0:21:14	今回ですね岩石コアのQ値測定というのは、容器的にといいますか補完的にやろうと思ってる中で、
0:21:24	手段1と言われる岩種が、これだけそろってればですね、全岩種アノ死守会社に対してはですね、これらのQ値は減衰のですね、評価ができるのではないかと。
0:21:37	ということでですね、この表をつけさせていただきました。ですんで2ヒガシ1をということをですねあまり考えてですね、表を作ったものではございません。
0:21:49	すいません以上でございます。
0:21:51	西平Cに分けなくていいという点。
0:21:58	そもそも何か、
0:22:00	イシハラヒガシヒガシ。
0:22:05	いやそういうわけでもないですね深くなれば、同じ岩種が当該時点の場合には出て参りますので、ちょっとそういう目でもう一度ちょっと見直させていただきたいと思います。はい。
0:22:17	すいません。ちょっと待ってください。
0:22:20	このようにして考える。
0:22:22	ササキ
0:22:24	ヤマダ。
0:22:28	今回のQ値測定で岩石化のQ値測定っていうのは
0:22:32	危険だと思っており、

0:22:35	主要慣習はですね、取れていけばいいというふうな考え方で、全ボーリングに対してですね主要会社が取れてるかということで、並べさせていただいております。
0:22:51	ちょっともう、
0:22:52	読んでて、
0:22:54	議会明日によってご説明。
0:22:58	この基本予算の最初、
0:23:01	何だ、
0:23:04	おそらくアノsはもうそのデータを採取っていうことも意味してる。
0:23:08	まず1項目。
0:23:11	両方かもしれないなというところが最終。
0:23:16	早期の御説明というのは、
0:23:21	仮にそうだとして、
0:23:25	うちの方で出てくる各地点の断面図と比べると、
0:23:31	大体この表と
0:23:33	スルーで東郷団地が逸しているようで、
0:23:39	そこで携わってるんすよ。
0:23:48	に書いてある会社。
0:23:50	それぞれの地域、木内というか、
0:23:54	られるんだろうと読んで理解して、
0:24:00	はいどうぞ。
0:24:03	今回ですね岩種ごとの給餌というよりですね、
0:24:09	全体のQ値というものをですね、考えておりました、もし、
0:24:14	そこで何か振幅構造等が変われば岩種ごとにあるかと思いますが、
0:24:21	ここでちょっとバツをつけさせていただいてるやつっていうのは、
0:24:25	はくそうですね今回やるのが基本的にダウンホールと同じように、ある区間を挟むというよりもツジが非常に下におろしながら、応答をですねとっていくというふうな方法をとっておりますので、
0:24:39	こういう中に挟まった鍵層みたいなものをですね、S波っていうのがですね、今回とれないような格好になります。
0:24:49	ですんで実際にはそのS波速度というのも、このバツがついてるような岩種については取れないということにもなりますし、

0:24:59	先ほど言いましたその発想で、出てこないものもございましてので今回のEL-70メーターのボーリングですと出てこないものもありますので、そういうものにつきましては×印を入れているというふうなこと。
0:25:11	五つの中には聞いてなくてですね。
0:25:15	今は、
0:25:17	説明を末子理解すると。
0:25:21	一応ここに出てくる岩種で丸がついてるものについては、サー件数、
0:25:27	ゆ減衰定数を、
0:25:29	そうですね。忙しい。
0:25:34	当然関山でございまして。S波測定で出てきた、Q値測定の地盤という意味では正しいと思います。はい、どうぞ。わかりました。
0:25:45	先ほど事故
0:25:48	等のガス移行試験と、3ケース両方やる。
0:25:51	この⑭、
0:25:53	話があるってということで、
0:25:55	はイトウザイゼンコウノウノでございまして。岩種ごとに、やりますけど丸ついてるもの全部やるということでございまして。
0:26:02	主要
0:26:05	マルついてるもの岩石等堆積物でございまして、丸ついてるもの全部の岩種試験をやるということでありまして。
0:26:13	この中からピックアップしてやっていこうというふうに思っていない。すいません。ゲストは件数1メーター。
0:26:24	数メーターとか、買収地は広谷比べたら、
0:26:32	場所、
0:26:34	ということでその両方向に含まれる複数の外周すべてについて、ちゃんとデータをとればという前提かもしれないけど、減衰定数はやられる。
0:26:45	そういう理解でまずよろしいですか。はい。す。
0:26:49	それぞれの振幅の差から、減衰っていうのは取れるというふうに考えます。わかりました。で、今言われたのは岩石コア試験ってのは、マルついてるけどやらないやつもあると。はい。ということですね。はい。わかりました。それやらないの判断とかがって、何も書いてないですけど、それ。
0:27:05	すいません妥当で東電設計のものでございまして、
0:27:09	実際にその岩石試験でですね、Q値が出るかっていう、Q値といいますかその減衰が出るのかっていうのも、

0:27:17	実際に今の試験をしてる人間の方々にもちょっと聞いておりますが、出る場合もあるし、当該地点の場合ですと、南岸なので、拘束圧をかけなければ、
0:27:30	わからないっていうふうなこともありますので、ちょっと私もですね、その辺のところ昔から、自分でもやっておりますので、その辺を一緒に立ち会ってですね、やって、
0:27:42	対象する時、地盤をですね選んでいこうというふうに考えておりました。
0:27:47	うん。はい、わかりました。まず、この設計じゃ今はね、口頭で説明があったので、
0:27:54	そこは調査結果ですが、明確に賛同して、
0:28:00	試験サンプル
0:28:01	試験の方。
0:28:02	試験に耐えられない
0:28:05	いうことは当然予想されます。そういった状況自体、やらない連動する可能性がある。ただ基本的な考え方としては、こういうところをねらってるんですよっていうのは、
0:28:15	説明はちゃんと計画として認めていただきたいと思いますんで、そこは、
0:28:22	はい。曾田事件でございます。はい、理解しましたので、そういう
0:28:26	記述をさせていただいてもう少しわかりやすいように行かせていただきたいと思います。
0:28:31	ちょっと冒頭の質問の続きになるんで、
0:28:39	ちょっと見直すっていうようなことにされたのかな。
0:28:44	一方で、来週によっては複数一対一のデータを取らない。
0:28:51	先ほど一番左の令和上部層の沢床－警報ですね。
0:28:57	この時点で、TALst想定も、瀬古の地点 1、
0:29:05	18 番。
0:29:07	はい。
0:29:08	他の複数にとってどういう処分するのかちょっとわかりませんが、この会社については 1 点だけで、
0:29:14	考えたとき、
0:29:16	ムロイも、
0:29:21	当然設計の
0:29:23	方の、
0:29:25	団交戸崎共通の承諾に対して、

0:29:30	すいませんちょっとこれこの書き方がまず
0:29:33	申し訳ござい
0:29:35	何本のですね、Q値測定というものは、その地盤に対してですね、その高というもので、減衰を測定するっていう考え方でやります。ですので、
0:29:48	ここだけでしかやらないのというよりか先ほどあの位置的な話をさせていただいたときに、例えば泥岩の上部層であれば、西嶋のところプラス1個追加しますよということで、
0:30:00	そこに地盤の減衰というものを捉えようとしておりますので、岩種ごとと言ってるやつは、その岩種自体が持つてる、実際のその、
0:30:10	テグス鉤物ですとかそういうふうなものに対してですね減衰っていうのはどういうものなのかっていうものを、ちっちゃな供試体です、ここで言ってる。
0:30:21	スペクトル比法ですとかそういうもので求めるということなので、多分岩石単位で同じような値が出てくるんじゃないかというふうに、私の方は思ってますね、こういうふうな計画をさせていただいております。
0:30:36	所長の岸野です。
0:30:37	そしたら基本的な理解が私違ってたのかもしれない。
0:30:42	BSなイシイが非常に大きいんですね、来週ごとに値を設定するために、今、
0:30:49	種計画。
0:30:52	ハザードとしてですね。
0:30:54	絶対値をこなしていこう。
0:30:58	せよ、買収ごとに慎重ですよっていう数字がそれぞれ決まるのかなという。
0:31:04	考えて、そういった大丈夫設計。
0:31:10	当然設計の部分でございますが、向後とかモンマ、
0:31:16	こうごとにですねその市野向後と西ヒガシ中央、先ほどの我々で言うとブロックあけてる工法とかにですね、
0:31:24	減衰定数が幾つだということをですね、基本的には一律でQ値を測定しますけども、周波数一条周波数には関係なくてですね、一律の物性を設定するというところでですね。
0:31:35	このQ値測定をしますので、そういうふうな考え方でオクしておりますその補足としてですね、岩石コアの試験をやるということで、それが主要岩盤があるのかないのかっていうのを確認するために、

0:31:48	ここの3-1票というものを作らせて、
0:31:52	わかります。
0:31:55	競走はさっき言った、
0:31:58	赤本放送の、
0:32:02	戒告が表面。
0:32:04	おそらく、
0:32:08	その範囲の、
0:32:10	減衰定数をもっと生きとっちゃう。
0:32:13	すると、
0:32:14	いうことなのかなと思ったんですが、
0:32:17	来週も違うわけですから、Vsが、
0:32:23	一応事実なんだっていう考え方は、一般的な
0:32:29	当然設計の部分でございます。それ計測によって、例えばQ値の振幅がどんどん変わっていけばですね、それぞれQ値が上の方は、おつきくで下の方は小さくてというのは出てきますので、
0:32:40	それはもう結果を見たところで、分けていきますそれが岩種ごとに違うんであればそういう境界をですね、宮中の境界みたいなことにしますけども、今はその岩種よりも、全体的にどういうふうな湿布の違いが出てくるのかっていうことを測定しようと。
0:32:55	いうふうに考えております。はい。わかりました。ちょっと当初イメージ。
0:33:00	違ってたかもしれない。
0:33:06	当然、申し訳ございません今みたいな作り方ですねこれを、私はそう思って作ってたんですけども、資料の定義がちょっとそういうふうになったもんですから、
0:33:18	すごい部会を与えてしまいましたので、ちゃんとわかるようにですね、もう一度この辺作り直しますので、よろしくお願ひします。わかりました。今言われた基本はこうごとにまとめるのかもしれないんだけど、
0:33:31	当然ながらその椎野方向にデータを見ていったときに、当然、層境界といいますが明確に区別すべきところがあったら当然すること。
0:33:39	そういった整理の考え方も含めてちゃんと設計、
0:33:45	設計の部分でございます。はい、庄子白木承知いたしました。
0:33:50	でも、
0:33:52	勤務
0:33:53	分、

0:33:54	松葉町、
0:33:58	そのあたり、
0:34:03	8Gのところはですね、この岩種自体が、当然、当然計画でございますが、
0:34:09	この岩種自体がですね、すごい発想でですね、ないものもございます。
0:34:19	事業許可申請書の方でもですね、ここでバツをしているものというはすごい薄層のものである特定の深さにしかございません。
0:34:27	そういうものについてですね、我々主要岩種からですね外れたものによってはですね、他のものをですね、代用したりですねそういうことをしておりますので、
0:34:38	これらのちょっとバツをつけさせてもらったものについてはですね、
0:34:42	場所によって
0:34:44	泊層のものもあるし、
0:34:47	70メートル以下で出てこないものもありますので、そういうものに対してはですね、岩石コアというものは多分取れないだろうというふうな、
0:34:56	考え方からです。
0:34:58	ね、今×をつけております。
0:35:06	森沢。
0:35:10	伊佐ハットリます。
0:35:12	エザワ通過してきますんで。はい。これ設計の難しい。
0:35:16	規制庁西です。あと8ぐらい。
0:35:19	はい。80。
0:35:20	パッチング
0:35:22	この監視については、岩石試験岩石コア試験はありませんという
0:35:29	バツがついてるものついてない。
0:35:32	バツがついてるものはですね当然積極でございますが、バツがついてるものはですね、ボーリングの中には出てくるんですけども、薄層で取れるか取れないかがわからないというのがバツでございます。で、
0:35:45	ないものはですね、この凝灰質砂岩はですね、実際にとれたものがないものですから、実際にこの中の岩石の中で一番弱いものをですね、
0:35:55	事業許可申請書の中ではですね、使ったというふうな事例がございます。
0:36:04	規制庁の木曾です。はい。
0:36:18	はい。

0:36:25	の箇所、
0:36:29	規制庁、田崎ですけども今の関連しますんでちょっとお聞きしますけれども、結局核をゴトウに1ヶ所、一つの減衰ということで今考えてるんですけど、
0:36:41	実際問題、ナゴって、層序見ると、当然そう強化みたいなものが出てきて、加来相馬層、岩種なんかそうなのか。出野。
0:36:51	球菌なり、減衰を取ろうと思えば取れると思うんですけども、それから取らないの判断は、そのを実際し、過信しながら判断するということになるんですか。
0:37:03	当然設計部門でございますが加振しながらここはこうだっというふうなその減衰のところまではわからないという、
0:37:12	実際にはこの水分ってこうかけながらそれが下のモニターで同じ周波数で取れてるかっていうのを確認しながらとっていきますので、その振幅がその減衰的にここで変わるとかっていうようなところまでは、
0:37:25	多分その場では確認できなくて、同期してるかどうかっということだけはですね確認してデータをとっていくと、いうふうなことになります。北脇ですそうすると衛藤。
0:37:36	ですから、データとしては最終的に1メートルごとのデータを取った上で、その後処理として、この層からこの深さからこの深さは同じ。
0:37:47	途中で変わるから、この層に関して、Q値、この深さに関してQ値っていう形で、後から計算をするプロセスになる。そういう意味で、そういう解析の方法だと思います。
0:37:59	来てたわけですよ。そうすると、やはりIVとして一本で取るのか、或いは、いやこことこの間はやっぱりちょっと、
0:38:07	UTOPのHとして減衰として、評価を、
0:38:11	入るという考えはできるわけでは当然設計の方でございますそれは総合的で全部1イチャニとるんじゃなくて、ここ分けておるんで、設計にあたっては1にするとかですね、そういう判断は工学単位にしていくんだという、
0:38:25	最規制庁アベですそれを判断するときには、毎時説明をしてもらいたいということ。
0:38:32	あとこれ先行してる9電の方で、もう基本的には河本ナリタしかやって、
0:38:37	協議してるんですけども、それはやはり、もうそういうものだということですかそれとも或いは、9電の地盤としてはほとんどその層ごとのコントラストが出てこなかったから、

0:38:53	その辺りはちょっと難しい。はい。九州電力の明石でございます。9. の方の結果としては今、ハバサキさんがおっしゃった後者。
0:39:02	の方で、木内も当然なんかコントラストも出る場合はあるだろうと思って解析をしますけども、結果的にほぼ、
0:39:10	どっちだった外科医世代どっちだったか忘れちゃったけども、3本のすべての上からシマウチは一緒に、どちらかは途中でちょっと微妙に差がついた同定を同定とか測定結果が出てくるもの。
0:39:24	もありましたけども、結果的にほとんどもう、木内のコントラストはなかったという結果になっております。以上でございます。
0:39:33	はい。規制庁山崎です。説明ありがとうございます。理解しました。
0:39:37	今回は、
0:39:39	玄海、川内とは違うからです。何万、
0:39:43	ソウノコントラストという意味ではそんなに大きくはないかもしれませんがけれども、それは、
0:39:50	結果を見ながら判断できるということで理解しましたので、
0:39:55	と。
0:39:57	そういった方向性。
0:39:59	もですね、資料の方で説明していただくことは可能でしょうか。
0:40:05	よほど先行として1本だけじゃなくて決めるという、状況によってその層ごとに評価するということもあり得ると。
0:40:13	というような説明っていうのは、当然設計の上でございます。実際の計測データからですね、
0:40:19	もう、
0:40:20	機能というか生減衰を出すっていうデータもご提供できると思いますので、その辺のところは、
0:40:28	だし、提出していきたいというふうに考えております。
0:40:30	この、警察のところ、そういうとっていきますっていう、その方を対
0:40:37	形でお出しするまで、
0:40:40	そうですねはいちょっと、計測の方々にちょっと聞いてみたいです。
0:40:45	わかりませんので、もう1回ちょっと持ち帰らせていただいでですね、
0:40:49	方法がわかってて、明日出る方法もわかってるんで、多分出ると思うんですけども、確認してください。
0:40:56	はい。規制庁浜崎です。お願いします。
0:40:59	院長の伏見です。すいません。

0:41:03	先ほどの要件の中で、4 ページの表、
0:41:07	三種別に、
0:41:08	網羅できるかという、言われて、
0:41:11	ちょっともう一度見直しますというような、
0:41:13	三野さんからありましたけども、
0:41:17	後半で確認したところ、
0:41:19	地点ごとに、
0:41:20	もう本当に
0:41:23	もう基本、一つは深度方向に当然、もし変わるようなところがあったらどうするというような
0:41:30	考え方に照らし合わせ、
0:41:32	この研究は、抜本で見直せるか。
0:41:42	だからちょっとあれなんですよ。で見ていく日で賠償は当然積極ございますがちょっとこの表をですね、
0:41:51	この観測のところで出すのが、間違っております、これは岩石試験の時に、こういうこと、この表、表に書いてある岩石試験を、
0:42:01	実施しますということで、整理させていただきたいと思っております。
0:42:06	それでそうでしょうか。いえ。そうじゃないんですけど、そうだとすると、もう岩種ごとに、
0:42:13	評価する可能性を、
0:42:17	はい。
0:42:19	お話だったら、
0:42:21	必要に応じて経過を見てない事によって、
0:42:25	うん。
0:42:26	モリコミヤ
0:42:30	うん。
0:42:33	ところですけども、
0:42:35	私はそういう意味からさ。
0:42:37	満席。
0:42:43	配当設計のものでございます。
0:42:45	岸野さんがおっしゃられる通り、今、浜崎さんがおっしゃられたことと、
0:42:51	照らし合わせるっていうふうに思いますね。だから、
0:42:54	そのQ値変化するところが岩石ごとにあるが、岩種ごとに異なるのであれば、この表の中で取れてる岩種っていうもののQ値っていうものを、

0:43:04	ピックアップして、それが同じなのかどうかっていうのはですね、まとめられるっていうふうなことも考えられますので、すみませんそこを合わせて、もう一度ちょっと見直させていただきますので、
0:43:29	各行も
0:43:32	院長。
0:43:35	は、
0:43:36	ない。
0:43:38	おそらく解放基盤表面に出したところまで、
0:43:48	はい、藤ですけど。
0:43:51	ます。一応、解放基盤面、EL-70 メーターを測定するのに、
0:43:58	今ゾンデ町がですね、実際に 4、4 段、
0:44:03	5 段のゾーン例を入れるんですが、
0:44:06	そのゾンデのアクチュエーター等がですね、下部についてまして、それが 10 メーター以上あるそうなんです。ですから、その損例が当該地点何個です。
0:44:17	どうぞんでをつけるかによって、どれだけ掘るのがまだ確定していないということで、基本的には今の通り 125 メーター、70 プラス、
0:44:28	55 で 125 メーター + 20 メーターということで、掘削の長さですね設定しております。で、あとは現場合合わせでゾンデを幾つにするのかっていうことで、その深さを 10 メーター短くするか、
0:44:42	20 メーター短くするかということで、決めていくというふうに言われたので、それ決まり次第ですね、この中にですね、
0:44:50	長さをですね、全部入れて参ります。
0:44:53	はい。
0:44:55	現場の状況とかは当然状況次第、
0:45:02	今回どこまでをターゲットに、
0:45:05	うん。
0:45:07	基盤表面に達するところまでは最低、
0:45:11	和泉さん、細江っていう、
0:45:14	うん。
0:45:15	プラスアルファのその知財。
0:45:18	予防、
0:45:25	の計画として、
0:45:31	関野でございます。はい。

0:45:39	はい規定長浜崎です。そしたら 13 ページまで、規制庁は他に何か。
0:45:46	たいことありますか。
0:45:49	規制庁カミデですけど。
0:45:51	5 ページのところで、直接減衰には関係ないのかもしれないですけど、
0:46:00	次 14 ヒガシ側の外れにあるG14 の辺りに、
0:46:06	SF-9 断層っていうのが端、
0:46:09	いえ、
0:46:10	これが
0:46:14	G36 フジイ 14 を跨ぐように走ってですね、
0:46:20	さらには、色の見た目ですけど、コントラスト違うような感じがするんですけど。
0:46:28	これ、おなじものとしてグルーピングしてるんで、そうでその辺、ここの断層の扱って扱いだったり断層の
0:46:40	前後っていうか、西ヒガシです、同じ地質であるとかっていうのをどういふふうに見てるんですか。
0:46:51	当然設計のものでございます。なるほど。このSF6 断層というのはですね面なし断層ということで、
0:46:59	共同的には全く影響がないというふうに、いうふうに我々は設定しております。ただ、これコントラスト上で見てですね地盤が違いまして、ここでやっぱり七十七、八十メートルの落差がございまして、速度構造が変わってございます。
0:47:18	それで今ここに絵を書いているR5-94 というやつは、実際に測定することになっておりまして、先ほどですね追加のゴコウということで、
0:47:30	ここにあるG-14 の上にですね、G-36 という、
0:47:35	保管場所がございましてその横でですね、ここでももう一つ、下ボーリングを追加して、そこでも計測することになっておりますので、
0:47:47	このSF6 断層のですね、上限かメインに対しまして、両方の減衰を測定するというふうな計画を今しております。
0:47:58	はい。失礼。そうですし、減衰もそうですけど、あれですねこれ関係ないですけど、直下地盤の設定においても、今そのGの授業側の 1 個だけしか使わないってなりましたけど、
0:48:12	そのあたりは小うちの 36 が掘ってみて、見てみないとだみたいな感じですか。
0:48:22	当然世間のウノでございましてが地質的には、この辺もボーリングをいっぱい入ってますので大体、

0:48:30	それなりにといいますかSFの過去に南側に傾斜してるものなんです が、大体もう所、状態は把握されております。
0:48:39	建屋のあるところまでは、状態が把握できておりますので、新しく確認す るというよりはですね今回どのぐらい特性が違うのかということで、3、G 36 ですかG14 に対するですね減衰が、
0:48:54	いかがなものかということ測定しようというふうに考えております。
0:48:59	はい。生協亀井です。わかりました。
0:49:02	それ以外の分速度構造なりの話はまた別の話というか、耐震建物で、 あっちのヒアリングで聞けばと思いますので。はい、わかりました。
0:49:15	ヤマザキの。
0:49:18	はい規制庁ヤマザキです。13 ページまで半端に何かありますか。
0:49:23	ウチヤマ。
0:49:26	なければ 14 ページからになりますので、聞いたわけですか私の方から、 ちょっとこれは、
0:49:34	タカミチました。お聞きしたいんですが 16 ページに、今回を測定する上 でこれ最大振幅法、
0:49:42	今回、
0:49:43	測定されるということで理解でよろしい。
0:49:47	つかない。
0:49:48	最初、最初スペクトルじゃなくて、それを使うんじゃなくて、スペクトルじゃ なくてですね、これはここにも書いてございますけども偏重で、社員はオ ダしてですねその真空の差を見ていくという方法での体制は生きてたわ けでその時に
0:50:05	これ三宅分の伝播距離があれば、
0:50:09	評価可能だということで理解でよろしい。
0:50:13	そうですねはい。
0:50:14	そうすると今例えばVS数 600 ぐらいサトウ 60 メーターぐらい。
0:50:19	金アノ 10Hz10Hzまで、
0:50:22	そうですねはい。だから、やはり停止、低振動数。
0:50:28	はそれだけな前に、1 波長が波長が長くなるから、逆に、1 波長分の記 録があればそれなりの精度の減衰評価っていうのはできるんですか。
0:50:43	ちょっとそこまでちょっと細かいですよっていうのは今これ、今回ターゲッ トとするのは 10Hz以上。
0:50:51	以上といいますかですねこの 10 平時というのがですね、機器の機器だ とか新規のですね限界だそうです。

0:51:01	これよりも小さい周波数体は、そら取れそうなんですけども、それは評価の対象にしないというのが、
0:51:12	測定側の方からのご意見でもしもできるのかって言ったんですけども、これ以上低くはできない。
0:51:18	ということなんですよ。
0:51:22	成長はオザキです。わかりました
0:51:26	何。
0:51:27	菱沼郁雄とかですね、そのぐらいまで取ればよかったですけども今回そういう制約があるということ。
0:51:36	仕方ないかなというところですけどはい、理解しました。そのあたり、
0:51:40	明日ので、
0:51:41	実績とか、はい。はい。はい。九州電力の明石でございます。当社の九州電力でやった場合においても、やっぱり振動数はもう10Hzより、タカハシの津川でしか、
0:51:55	評価ができております。ただこれ評価結果替えられたところでの考察が大事になってくるかなと思いますけども、同社の測定結果、すいません、これからもちょっと浜崎さんにはご覧。
0:52:09	いただければと思いますけどこれさ、検査の結果なんですけど、結局周波数値によってそんなに勾配がないと。
0:52:17	いうことあくまで外挿にはなりますけどもより振動数の低いところに対しても、ほぼほぼ同等の値と、いうふうに考えることはできるだろうと。
0:52:28	いう考察も当社行った上で、アノとは言いながら獲られた、Q値の減衰の絶対値がどこまで信頼あるのかという、
0:52:40	ことを念頭に置く必要はありますけども少なくとも、周波数の低いところに対しても、十分適用はできるものだと。
0:52:50	いうふうに考えるとともにそういう条件があるからこそ、設計に用いるQ値ベースの値としては、保守性を持たせて考えると、というような整理を行っております。
0:53:03	はい。以上です。はい、澤邊です。そういう専攻の意見をですね、今回、年齢の方でも、元のメンバーですね、反映した形での整理ということをしてもらいたいと思いますが、
0:53:17	よろしいですか。
0:53:18	はいどうぞ設計等でございます。その辺はいろいろとご指導していながら、さしてただけさせていながら、いただきながらやっていきたいと思っておりますよろしく願いいたします。はい、規制庁です。

0:53:31	どうぞよろしくをお願いします。
0:53:33	しちゃうけどあとですね、実際試験の方行って17ページと19ページかな。タイプ妥当アノを使って、両方これ試験されるんですけど、
0:53:43	通常、もう、
0:53:46	対価のほうが減衰大きくなるという理解だったんですけども、あえて大気大気圧差で計測する、Q値を測定する理由ってのは何かあるんですか。
0:53:59	教えてもらいたいんですが、当然設計の方でございます。9電さんでこれやられてるものなんですけども
0:54:07	実際に硬くて介護基盤名以下の眼振なもんですから、大気圧でもイシイとして取り扱えるんで、よろしかろうということでただ当該時点なんでございまして、有効力的、
0:54:20	に負圧が何か聞いて影響してくるんじゃないかということで、ただ単にその負圧をかけない時の値
0:54:30	値とですね、フナツオカキタニという値が変わるんじゃないかと、いうことで一応Huber通をかけるというシステムをですね、ちょっと用意をさせていただいて、
0:54:40	ちょっと様子を見ながらですね、試験をしていくということで、さしていただいております。はい。木藤浜崎です。今の説明は理解しましたけれども、
0:54:51	基本的にはこそ数がかかった状態では、通常の話なんで、いや、大気圧ではこれだけ減衰が大きいからこちらを採用しますだとかそういうような、
0:55:02	何かもくろみもあるのかなと思ってしまったんですけどもきちんとそこはお客様の説明、端的な説明をしてもらえればというふうに思います。よろしくをお願いします。同じでございます。はい、承知いたしました。
0:55:16	規制庁浜崎ですあとですね、20ページ20ページに、6日、封入の時の試験方法が20年の20ページ21ページにありますけれども、
0:55:29	これわかる人にはわかるんですけども、例えば20ページに書いてある文言が21ページ以降どこに対応するんだっていうのがわからないところあるんですね。
0:55:39	もう少し丁寧に説明してもらえればと思いますが、よろしいですか。はい。はい、当然先ほどでございます。はい、承知いたしました。
0:55:47	はい。規制庁浜崎です。
0:55:51	とりあえず21ページまでですけども、

0:55:56	藤井様、ほかに何か確認事項ありますでしょうか。
0:56:01	カミテですけど、その 17 ページからのちょっと資料の流れがよくわからなくて、
0:56:09	Aポツで室内岩石試験とあって(エ)加古Bって繋がってるんですけど、一連の流れかと思うと何か、
0:56:19	並列っぽい感じもしてあって、よくわからないんですが、室内岩石試験、結局何種類、減衰なり、Q値が、
0:56:30	られるのかっていうのをまず教えてもらっていいですか。
0:56:35	当然設計のものでございます。今のところ対象糾弾集ということで考えておまして、
0:56:42	その 9 岩種に対しましてさ、1 個 3 要素ぐらい 3 供試体ぐらいをやって、
0:56:50	全部で 181 ですか、ぐらいのボリュームを今考えてございます。元のことです。権藤さんのこれ多分神谷さんのご質問は、これBDFって並べてるけれども、
0:57:05	このうちのAとBは、その前段の話でCPFが視点を並列に並べてるんだってこういう構想、構成だと思んですけども、だから試験は 4 種類あるんですよっていうことをやってるのかなと私は思ったんですけども。
0:57:19	そっから水アノさんのその、はい。
0:57:23	だから日比磯野氏の 4 種類の試験やりますってそういうお答え、すいません。ですね、これちょっと書き方が終わると後、
0:57:31	資料 1 と、
0:57:33	B、Dは、どちらをやるかを、今、ちょっと浜崎さんにおっしゃったように、考えながらやりますということと、
0:57:42	あと、いいと。
0:57:44	不破、これはパラでハラといいますか並行してやりますので、3 試験をやるというふうな格好になります。
0:57:53	はい。そういう状況です。3 試験やって 3 種類マキグチ行きましたねっていう時にそれを三つ並べて、もしくはさらに
0:58:05	あれですよ試験結果もあって、4 種類とかになっちゃうと思うんですけど、それをなお並べてどうするつもりなんですか。
0:58:16	当然設計いですよ。
0:58:20	使うのかっていうご質問だと思んですけども、
0:58:23	はい。日本原燃のオガセ、
0:58:25	こちらについ
0:58:33	ミナミっていうところをちゃんとこう話、ちゃんと、

0:58:36	あげなきゃいけないと、一つは例えば内部減衰を主にやったものですかそれとも材料減衰、
0:58:42	あとあの弾性領域のものですよね。
0:58:45	話であと信頼区間の周波数依存的なところの話もあつたりしますので、それらを全部こう並べてあげた並べるという、
0:58:53	最初
0:58:54	我々が今回、
0:59:09	の方々に
0:59:15	現在、ある意味仮決めした旧知のIG減衰定数に対してのリファアーをにかけていくという、そういう
0:59:26	はい、上出です。実際どうなんだ。並べた上でどう料理するかっていうのはやってみないとわかんないところがあると思う。
0:59:36	て言ってそれがあるので、何するのかよくわからない。資料のまま今出てきてます。とりあえずやる気やるって決まってることだけ書いてあるみたいな感じはするんですけど。
0:59:47	もうちょっとですね先の方までというかこういうものたちを使ってこういう検証もできるし、これはこういう目的だから、こういう使い方ができますよとか、
0:59:58	ガチガチではなくてもですね、これらを取ったものをどう組み合わせていくのか、どう使っていくのかということまでわかるようにしてもらわないと、うんって感じでしかないんで、その辺りをもう少し明確にもらえる
1:00:15	本県のオガセ、
1:00:16	どちらがすいませんちょっと資料が前後しているのが、
1:00:19	悪いと。
1:00:21	今作っており、
1:00:22	重点必要という
1:00:25	ところの、別紙の方で減衰定数の
1:00:29	そういった追加検討をやるようなところのコア試験とかも含めて、
1:00:34	使っていこうかこういう物理的特性がありそうだからどういうふうに使っていこうかというところは、まだある意味、方針的なところの気持ち的なところで結果はないんですけども、どういうふうに使っていこうかというのを、
1:00:44	アイティフォー、
1:00:49	矢田美恵。

1:00:52	現年度分でございます。
1:00:55	今、これを出してるですね追加の試験についての計画は、一旦はですね補足説明資料に、
1:01:05	含める形で、このご審議いただくという形をとりつつですね、最後には結果が出てきたときに、それを夢真にまとめていくっていうステップは踏むと思うんですけども、
1:01:18	当面この試験をですね補足説明資料に入れる時にはですね先ほどアノオガセから申しあげましたような、もともとのその減衰の方の検討の中のどこに位置付けてこれをやっていくというのかちょっと紐づけがちゃんとわかるように設定してですね今、
1:01:34	神さんからご指摘があったような、この試験どうやって、何のためにやるのかといったようなところがちょっと読めるように、きちんと整理して参りたいと思います。どうもありがとうございます。
1:01:48	はい。どっか別でちょっと思い出して、私の方からは以上です。
1:01:55	はい、規制庁浜崎ですちょっと途中で切っちゃいました。24 までですね
1:02:03	何か他に、規制庁側からコメント、確認事項ありますか。
1:02:16	規制庁、竹田です。1 点だけ、1 点が 2 点ぐらいあるんですけどまず 1 点目はですね、ちょっと資料の説明のわかりやすさという観点なんですけれど、
1:02:27	22 ページの学校のスペクトル比法の説明のところ、各種
1:02:36	ふな理由ゼロなり説明あるんですけどここで受かるアノGですね企画学的因子ってあるんですけど、ここで
1:02:46	プールの家ですね、これの結果のパラメータの時まで来る結果として影響を与える因子だと思うんですけどこれが具体的にどういう数字になるのかというのは、いかがでしょうか。
1:03:01	G-サノ的に、20 ページの
1:03:06	家の幾何学的に重要で、
1:03:09	こういう形が入ってるんだけど、これ
1:03:11	具体的に、どういう数字を何事を使って、
1:03:19	これ比ですから、消えてしまいますね確か。
1:03:23	成川です。
1:03:29	すいません。ちょっと今、即答できないんじゃない。当然設計もでございます。今ちょっと即答できないもんですから、ちょっと確認して、この辺のところを記述させていただきます。

1:03:41	はいわかりました。あと1例で説明の間というところだけお伝えしたんですけれども一応他のところも見渡していただきましてこういった定数だとかそういった、
1:03:53	項目に対して、具体的な数値が、説明があるものもあるんですけどないものもあるかと思しますのでちょっと一応一通り見ていただいて、説明が必要かなというところは、説明をしていただければと思います。
1:04:06	はい、答弁設計の方でございます。はい。そのようにさせていただきます。
1:04:11	規制庁竹田です。お願いします。最後1個だけ、ささいな話なんですけど、次の23ページ。
1:04:20	なんですけど、
1:04:22	ここでアルミのQ値であるんですけど、これ15掛ける、或いは10-4乗ですよ、104. なってるんですけど、
1:04:36	10-4乗。
1:04:40	ごめんなさい。うん。はい。当然関野でございます。間違いか、間違えた。
1:04:46	修正さ
1:04:48	はい。規制庁の竹川です。誤解がないように何か気をつけていただければと思います。私から確認以上です。
1:05:01	さんから質問あるかな。
1:05:07	重要な規程Gで、
1:05:09	まず危険と見込まれる方です。
1:05:15	簡単やな。
1:05:21	ちょっとおっしゃって、
1:05:23	扱える3点にしかない
1:05:29	このつられてその岩石減衰を測定する手法っていうのはもうこれしかないということであれば、
1:05:39	例えば、
1:05:40	全文評価、
1:05:52	そうなんです。
1:05:54	一方、
1:05:56	選択肢がある。
1:06:01	説明がないまま、
1:06:02	ありますっていうふうに、参考。

1:06:17	原燃のオガセですアノ参考という言い方がどうかという話はともかくとしてなんですが、この岩石のコア試験というのは実際に、
1:06:35	大門、現在、
1:06:41	調停
1:06:45	内部
1:06:56	以降、
1:07:05	各
1:07:06	評価の1 図形っていうところを変えて、
1:07:12	対応。
1:07:27	あとは、
1:07:27	先ほど来、
1:07:30	規模とか、相対
1:07:31	後は、
1:07:36	ものを、ある意味、
1:07:40	ちょっと1 段落ちるような、
1:07:50	いるわけで、
1:07:57	うん。
1:08:03	いっぱい。
1:08:07	考えます。
1:08:11	やりますって言ってる以上、
1:08:13	30 分ステージで、
1:08:15	それ、
1:08:19	いや、
1:08:20	筒井さん。
1:08:26	30 年おそらくそういう扱い。
1:08:30	最初、
1:08:34	分析するまでこうしても、
1:08:40	そういう理解
1:08:43	元ノモトでございます。ですね。
1:08:47	ものすごく直最適に言うと今、秋谷さんおっしゃった考え方に聞かいい考え方は持っています。
1:08:58	なんですけれども、だからといってこのですね、試験が意味がないかという、受けてそうではなくてやっぱり、

1:09:09	それなりにそれぞれの意味合いがあってこれだったら、あれですねと材料ですよ。
1:09:17	形にはなるので、それはそれで適当でいいじゃないかっていうふうにはならないのでできることはみんなやりながら、データオカドウ目のステップで上げていくと。
1:09:31	いうことなんだと我々は思っております、だからそれぞれのやっぱりちょっとステップでできることは、カー杯やっていくということだと、いう理解でお渡ししております。
1:09:44	うん。
1:09:46	はい。はい。です。
1:10:02	はい。
1:10:03	うん。
1:10:04	基本原則は一般
1:10:06	まず、
1:10:08	いろんな根拠並べて、
1:10:12	最終的にはそれ、
1:10:15	元金を加味しながら優劣をつけて最終的にはこのあたりの流れをする。
1:10:27	それを最初の計画にしてしまうというのは、
1:10:39	で最終。
1:10:41	今後の分析の方はそういう意味で、
1:10:44	遅い。
1:10:55	それを睨んでですね、
1:10:59	3地区でも、
1:11:01	うん。
1:11:02	うん。恐ろしい。
1:11:06	これは、
1:11:07	別の
1:11:08	合理的な理由は、
1:11:10	はい。
1:11:11	選考の際、
1:11:13	事例を
1:11:15	書いても十分適応
1:11:18	ふうん。
1:11:22	結局ですね。

1:11:37	現状でございます。はい、承知いたしました。上流からこの計画としてこの試験を選んだ位置付けというのを、結果からは、結果を何金戸に置いたような、
1:11:50	ことではなくって、もともとの標準的なやり方から逆展開して、それぞれの意味合いというのを手にちょっと説明するということかというふうに理解いたしました。どうもありがとうございます。
1:12:07	いいですか。
1:12:08	市長浜崎です今のちょっとパン、
1:12:11	計するんですけれども、
1:12:13	今回 17 ページの一番、両括弧Aのところ、五つを算定しますね。継続しますね。
1:12:20	要は、PS検層の結果が 12 個増えるわけですね。
1:12:28	で、これは、
1:12:30	基本地盤モデルルーを、
1:12:33	設定する上で、さらなるデータが追加されたという位置付けになるんですけれども、
1:12:39	今回のこの
1:12:40	追加分っていうのは、どういう形で扱われる予定ですか。
1:12:45	ジンノでございます。おっしゃる通り、データが出てくると、ということなので、これが一つのデザインになるわけですが、もともとの最初のこの試験の立て付けと
1:12:58	まず基本、一番モデルをある程度の確度をもって設定したと、ある程度角度を持って設定したけれどもこの角度をやはり確認していくという観点での追加試験であると。
1:13:11	要はやっぱりこの試験の気づきをはっきりさせないと、やっぱりそれも不幸めるのかどうなのかということになるので、やっぱりその確度を確認するための、やっぱりこれは検証のための試験なんだということをちゃんと明確にしてこれは試験をやりたいと。
1:13:26	思ってます。はい規制庁アノです例えば、隣接するグループの層構造は、今回新たにPS小アノ検査をしたら、随分違った。うん。なった場合、はい。
1:13:37	は、どうぞ。
1:13:39	ですね、その場合の前提としていた基本地盤モデルの設定に立ち返って検討すべき、棄権替えられたということになるんであろうと、いうふうに

	は思いますのでその場合にはアノないというふうな見込みのもとに我々、これはやってるわけではありますけれども、
1:13:57	その時にやっぱりちょっと立ち戻って、検討せねばならん、危険があるんだと、いうことに立たざるをえないんだらうなというふうには思っております。すいません。衣川から補足あればお願いします。
1:14:11	うん。幾らへ。はい。
1:14:13	はい。規制庁浜崎ですその立ち位置が、非常に重要だと思いますのでね、多分そんなにない。
1:14:22	と思いますけれども、
1:14:24	当然そういう場合も想定しておく必要あると思いますので、はい。
1:14:29	ちょっとそういうスタンスたち、もう、
1:14:33	資料の方は知ってもらう。
1:14:35	確かで。
1:14:37	要は、結果オーライっていうんじゃなくてですね。はい。こういうことまで考えていって、今回追加の試験をするんだということがやはり、本来あるべき姿というふうに考えますので、はい。
1:14:50	そこは説明を、
1:14:52	島崎ます。
1:14:55	日本原燃の方でございます承知いたしました。衛藤も明示的に仮に、我々が想定している仮設と、
1:15:06	異なるようなデータが入れた場合は、もう一度立ちどまって出たように基づいて検討するといったようなことをちょっと明示的にさせていただくということだと理解いたしました。
1:15:17	はい、規制庁山崎です。お願いします。
1:15:20	あと他に。
1:15:22	25 ページまで、規制庁があつたっけ。ないですか。なければ、最後スケジュールですけども、ごめんなさい。共産党。
1:15:33	基準の話です。はい。よろしいですか。
1:15:38	すいません。電話で問い合わせしませんけど、2 ページ。
1:15:46	ふうん。
1:15:48	22 番、野瀬河本のは、
1:15:52	1 ポツ目たサイト実績
1:15:55	Dソネ相対関係の確認を目的として実施しているものとは昨年一つもありますけど、
1:16:01	上のボーリング孔内減衰想定にはそういった説明。

1:16:05	うん。
1:16:06	うん。
1:16:07	実施サイトとして玄海 35 人で、その中で玄海さんは、
1:16:14	今岡さん。
1:16:19	これ岩石行為に関してですけど、オダG、
1:16:24	位置付け、
1:16:32	はい、日本原燃のオガセさんのおっしゃる通りでございます。
1:16:51	現在、
1:16:55	うん。
1:16:58	はい。日本原燃のオガセでございます。こちらのすみませんか最終的にわかりにくくなったなという。
1:17:06	こちらなぜ
1:17:14	まして、今更
1:17:17	必要はないとか、
1:17:18	単純にやはり我々として、それぞれの市における
1:17:23	やっていくというのは、前提として話をしようというふうに考えておりましたので、こういった買いかえし、
1:17:42	今回の追加調査を位置付けて、
1:17:45	目が、
1:17:47	岩石コアの 1 ポツ目のようなものがあって、
1:17:56	うん。
1:17:57	現場もそうだったんだけど、糖尿間は、実際に
1:18:00	減衰設定の
1:18:03	説明書カンセツかもしれないけど、根拠が、
1:18:06	というようなことになって今回現在もそうしようとしているから、
1:18:10	働かないかなというふうに私は理解したんですけども、そうじゃない。
1:18:16	導入して、
1:18:20	ありがとうございます。
1:18:22	とりあえず、他電力さんの実績も踏まえてやることにしましたっていう基本的なスタンスは、あんまり変わんないって、それが我々としての実績がそれはあったものがなかったものっていうことでしかないんで。
1:18:41	はい。そこで、今のように、考え方をそろえて記載をそろえてもいいんじゃないかなと思います。いうふうに思うんだけど、いいですね。はい。池野でございます。それは、

1:18:54	そうですね。そろえますということは、前回と同じように、何か別のものを主に置いて、それが取れてるってやつは参考材料と、新しくなります。
1:19:07	2000年以降のやつが、
1:19:14	日本、
1:19:18	今までの説明の際にもつけてちゃんとしたその減衰定数の説明、
1:19:31	我々の設定。
1:19:42	違う
1:19:47	場所も見られているものであります。
1:19:54	そういった意味では、93
1:19:56	実際に
1:20:00	当社の介護基盤までとか、
1:20:07	アノ。
1:20:14	体の内容と今我々やろうとする場合もそうです。
1:20:24	これ先ほど日本原燃のオガセですけど先ほどのどういう調査をどんなふうにするかっていう意味戦略的なところをまとめるというところがあります。ちょっとそういったところは入ったんですけど、
1:20:36	いただいた
1:20:37	すいません。
1:20:44	直す。
1:20:45	いただきましたけれど、
1:20:59	はい規制庁浜崎です。24ページまでで、3人、規制庁がないというか、ないですか。なければ25ページ表増、その他のところについて、
1:21:09	規制庁だけです。ここ、兵頭に関しては冒頭の小口さんから、やっぱことで説明が追加があったんですけども、衛藤。
1:21:17	まず競争の物性値のに関しては、
1:21:22	このPS検層1時間半のPS検層とは別に、札幌っていうか、調査をする。
1:21:28	予定です。よろしいですか。募集。
1:21:31	現にございます。ケースでございます。そうすると、その計画についても、今後説明がある。
1:21:39	よろしいですか。はい。根本でございます。ですね、遠浅Yesでして、先ほどのSRAの方の追加のはなCも含めて、

1:21:51	これちょっとアップデートが必要だというふうに思ってますんで今の表層の話も一緒にアップデートが必要だと思っております、それをですねちょっと今日お出しはできていないんですけれども、
1:22:03	会合にはちょっと間に合うようにお出しする必要があると思っておりますえーとですね、今ちょっと考えておりますのは、この補足説明資料にこれまた入れて今
1:22:16	衛藤
1:22:17	一色はこの30日に出すものにはまだちょっと間に合わないんですが、それを8月9日に提出させていただくと。はい。これのリバイス版を、
1:22:25	2番の補足説明資料に入ってしまうと。はい。そこには、追加のボーリングデータそれから表層についての計画を入れる形で、戸田市したいというふうに思って、
1:22:37	はい、規制庁浜崎です。今のご説明は参事、来週の補足説明とは別に、はい。今日のこの追加ボーリングの資料のリバイス版が、はい。
1:22:47	8月の8月の9日に提出されると。はい。そこには、はい。すいません。衛藤。ちょっと私言葉が悪かったですけども、補足説明資料の来週の分には載ってこないけれども、
1:23:00	そこの、この追加調査の章のところのリバイス版という形で、8月9日に出させていただけたらというふうに思っております。はい。規制庁岡崎です。説明いたしました。
1:23:16	下、規制庁の前段階で、表層の部分としてどの位置をこのな、幾つぐらいとか、そういう情報も含まれて、説明されてくるということで
1:23:28	同じ形のものでございますが、今のところ、この辺の範囲をっていうことで、ちょっと数までちょっと限定できないかと思ってるんですが、そういうことでちょっと
1:23:39	ボリューム的に何点ぐらい、施工年代別のアリタというのもありますのでちょっとその辺で表現させていただければ、
1:23:48	はい、規制庁小貫です。
1:23:50	どうぞ、お願いします。
1:23:53	あと、表層25ページに関しては競争とかその他の25ページに関して、規制庁側から何か特にありますか。
1:24:03	特にないようでしたら最後にスケジュール、26ページについて、ですけども、あれですと私の方から、まずこの26ページのスケジュールも、今日の話、10人、
1:24:16	半とか12ヶ所に流行されるということもありますし、

1:24:21	表層の話も今ここにはないのかな、等もあるんでこれもその8月9日版ではリバイスされるという理解でよろしいですか。
1:24:31	はい。はい。はい。はい当然設計のものでございます。それまでにはです、このスケジュールに追加したいと思っております。はい、山崎です。
1:24:40	ちょっとこの中で、記載の確認したいのは、室内試験は、これ資料、
1:24:48	持って、
1:24:49	どこで、
1:24:50	使用予定と今のところはですね、応用地質さんのコアラボですので、浦和の方は宮下神谷のほうでやろうかと思っております。
1:25:02	はい。規制庁浜崎です。
1:25:03	これ現日限ちいの試験或いはその室内試験というのを規制庁我々は、確認といいますか施設視察するっていうことは可能ですが、
1:25:15	はい。あとタケノでございますが、時間的にですね、夜中だとか、休日だとか、そういうふうになるかもしれないんですけども
1:25:25	ご覧になっていただけるのであればですね、その辺のところは大丈夫だと思います。はい、木崎です。あとは休日ってのは現位置でのイメージです。はい。はい。わかりました。
1:25:38	私の方からスケジュールに関しては以上ですが、あれとスケジュールで何か議長側から確認事項ありますか。
1:25:50	はい。はい。規制庁神戸ですけど。もう、
1:25:56	大分ありますよね。
1:25:57	7月の終わりなんでねえ。
1:26:02	もう8月入っちゃいますけど、
1:26:05	準備としては着々と進んでるんです。
1:26:10	はい、当然設計のものでございます。ボーリングマシンの方もですね、今も搬入しておりますので、
1:26:15	本秋からの掘削ということで、計画通りに進めております。
1:26:24	はい。とりあえずはオンスケでは準備をしつつも追加になってこれも組みかえはしなきゃいけないけど、進められるところは進まず、
1:26:36	ということばかりしました。
1:26:40	はい規制庁、谷津ほかに規制庁側から、
1:26:43	何か確認事項ありますか。
1:26:47	規制庁浜崎です。1点だけ今回、スケジュール前回までは、4班ずつのふたフェーズだったんですが、今回、

1:26:58	6班で蓋ページについてそれでも4ヶ月ですね、2班ふやします。です んで、6班の2フェーズ構成と、
1:27:08	で、
1:27:09	使っております測定がですね、古門蒲生MACCSなんで、そのマックス で今の数ですね、プラスの16というやつを、対応しようというふうに考え
1:27:21	はい。規制庁浜口です。今ご説明いたしました。
1:27:25	他に。
1:27:27	きちっとマーカーなければ、
1:27:29	ないですか。
1:27:32	はい。
1:27:38	等ですね、資料、今回の調査計画についても説明し、
1:27:45	方向の制定に当たり
1:27:48	こういう感じで必要ですとか、られた結果、ホームドア、
1:27:52	いうあたりですね、
1:27:54	わかりました。
1:27:57	もっと基本的なこととしてですね、ちょっと冒頭いただいて、
1:28:04	小此木店。
1:28:06	のところで、
1:28:07	方策っていうのは、
1:28:11	うん。
1:28:12	やっぱり読んでわかりました。
1:28:14	していただかないと。
1:28:17	ちょっと私も誤解をしたのがありまして、
1:28:24	そこはちゃんとして、
1:28:26	たいなと思います。で、これセーリングチームの皆さん、多分見られるこ とはないんですけど、
1:28:32	むしろこういう資料、
1:28:34	資料になってる。
1:28:35	全面的
1:28:38	むしろ全部
1:28:40	細かいことわからないけど、ちゃんと趣旨を明確に伝えるか。
1:28:47	そういった目で見られた方がいい。
1:28:51	ちょっとそういう点は、
1:28:54	これ、

1:28:55	わかるようにしようっていう。
1:29:05	ジンノでございます。申し訳ありませんでした。はい、承知いたしました。
1:29:12	はい。伊勢椿です。特に確認等がなければ、
1:29:17	振り返りの方にゴトウしたいと思いますが、よろしいですか。
1:29:22	はい。来てたわけです。じゃ、竹田さんすいません、引き取っていただいでいいですか。
1:29:27	規制庁の武田です。それでは振替日の時間は、10分程度でよろしいでしょうか。
1:29:38	はい。十分に結構でございます。
1:29:41	はい。衛藤タケダです。それでは今16時41分ですので、とりあえず16時50分で一度状況を確認しますし、必要であれば、少し延ばすなり、対応したいと思いますので、
1:29:54	それでよろしいでしょうか。はい。よろしく願いいたします。
1:29:58	はい。ページセトそれじゃ、一旦録音の提出をお願いします。
0:00:00	杯録音しました。
0:00:03	はい。規制庁の竹田です。それではヒアリングの方を再開したいと思います。それでは日本原燃の方から、振り返りの方をお願いいたします。
0:00:13	ありがとうございます。振り返りでございます。新藤さんですね、ちょっと書き方の処理が見にくくて申し訳ないですけど、
0:00:22	ございまして、ここですね、
0:00:29	チェックをするってことは今日の四条のところ、それから機構、4ページの8、やっぱこういうところに行かないということで、記載をきちっとわかるようにすることということをいただいております、これちょっと1まとまりに書いてございます。
0:00:46	で、イトウ次ですね、4番目で酸欠をデータの追加取得につきまして、従前にしてるといったところも実施するデータをですね同率なるて良いのかの観点で加振条件の違い。
0:00:58	2です。35番目の各種調査においては、調査地点周辺の例えば建設状況等の状況について、詳細に製品が目ナツメを持っていますので、
0:01:13	安心を説明したということで6番目、4ページ目の表に示されるベッショでそれで詳しくしまして、確保の対象環境そのように網羅的に設定してるのか、考え方をというほど当初から今後の安定サービスを付けて対処するか或いは住宅並行に、

0:01:33	深度方向にキュウチョウ切り替える考え方が記載することと、ここちょっと誤解がないようになったよというところの関連でもあるんですけども、そのところの、
0:01:45	考え方をきちっとっていうことでございます。7番目、確保とのコサク町について調査目的踏まえて考え方って大丈夫かと。
0:01:54	すいません。まず8番目、24周辺地形はあるんです。もう断層を挟んで、施設が配置されているというところがございますけれども、それから共済の結果の考察にあたってはその漢字の確認についても、これ追加することということでございます。
0:02:10	で、決まって、須永式試験において、高塚不破近づける宮中測定の方、結果の一覧を踏まえた考察を今後やってもらうということで、それをちゃんと
0:02:24	順番にA、B、聞いています。その他についてですね、これ、共通化する形でちょっと、どこがどうか、ちょっと対応がわかるような形で記載を適正化します。
0:02:41	11番目、今回追加調査でやられるDた村長さんの物理的意味合い等の特徴を踏まえて、別に調査設定に際しまして、藤堂根拠として使っていくのか位置付け説明しないというのを、
0:02:54	ちゃんと仕事でございます。はい。江藤。一般的にやってたやり方に対するデータ拡充をやるという意味合いにおいてそれが基本による長所短所を踏まえて詳しいのが必要と判断した理由と、
0:03:09	ヨードをちゃんと製品して記載することという説明をちゃんと先生お話をいただいています。衛藤について組織記載のある脇山水村ナベタとかこういうですね、この規模の数値につきまして、
0:03:27	江藤層を内容といいますか、それがわからないものがあるので、そういうものはきちんと説明するように、藤ヒロキ益子4でいただいております。
0:03:39	14番で、今回追加するPSでその位置付け町のデータの妥当性の確認の位置図という手はあるんですけども、これ、異なるようなですね、江藤傾向が出られたといった場合には新しい規定として、また見直していくと。
0:03:55	いったようなことがわかりスタンスを、そういうところを明確にすることということで小南さん。

0:04:01	15 番目酒底の追加や細木坂、尾藤勝の追加調査計画についても、資料に今後反映してもらいますって話しますということを申し上げておりますんで、それを追加してございます。以上でございます。
0:04:19	はい、規制庁のバックドレスありがとうございます。それではこの質問に資料振り返り、
0:04:25	の説明につきまして、コメント等あればお願いします。
0:04:29	はい。規制庁浜崎ですけれども。
0:04:31	表層の追加調査に関しての説明を、
0:04:36	追加することっていうのが、
0:04:39	調査、そこに書かれてるってことですね。うん。
0:04:46	すいませんちょっと今資料ですみ微増をして入れてしまったんですけどこれ今ちょっとヒアリングの中ですみません研究してなかったことに入れてしまいましたですね、衛藤尾藤。
0:04:57	家族のですね、ツーカーの検討についても、今後調査していく、ITの中に入れようと思っておりまして、
0:05:08	その計画についても、この今後の計画の説明の中に入れていこうと思っておりますんで、これですね先ほど申し上げました 8 月 9 日のところに、もうちょっとマエダナカハラ 21 日に提出させていただくと。
0:05:22	形でバスをやりますという形のとくに、今度はまたビジョンの話も入れさせていただくと、いうちょっと思いも思っておりますちょっとそこら辺ですね、あっせんの進め方ヒライでもちゃんと書き物にして、練習しようと思います。
0:05:36	はい、瀬山です。スズキの話は理解しました。もう 1 点、細かい話ですけど 5 ページの一井瑠羽 2 既存の地震計の
0:05:50	を記載することっていうことがあったんですけど。はい。はい。はい。はい。はい。
0:05:56	はい。次、次の方お願いします。以上です。
0:06:00	規制庁の岸野です。
0:06:03	12%
0:06:05	一般的標準的なやり方に対するデータ拡充を行った上でっていうところなんですけど。
0:06:12	一般的標準的なあ。
0:06:16	表を基本と。
0:06:19	うん。複数の手法がある中で、

0:06:23	それぞれの手法による長所短所等をついていうふうにつなげていかげしようか。はい。ありがとうございます。はい。
0:06:34	複数の手法。
0:06:37	に対して、
0:06:41	はい。
0:06:48	好きになる。
0:06:53	話があるから、
0:06:54	松井。
0:06:57	加来課長。
0:06:59	はい。
0:07:01	はい、そうです。はい。
0:07:08	コサクです。14 番の、
0:07:14	今回、追加、
0:07:17	その既存データの妥当性の確認の位置付けっていうのは、この表現で、
0:07:23	これまでの話。
0:07:25	でもいいんですけど。
0:07:30	信頼性向上、
0:07:34	基づく設定の基本
0:07:39	弱で、
0:07:43	基本基盤モデルの確度の向上、難しい、ちょっと言葉がそうですね、妥当性ではない。うん。
0:07:51	はい。
0:07:58	加来。
0:07:59	ごめんなさい。
0:08:07	ていうか、どこ。
0:08:14	はい。
0:08:15	さっきヒアリングで、見直しの中でございます。
0:08:21	土岐節ハバサキですけども私の方から言ったのはどちらかというともう、後段の、
0:08:27	既存データに対して異なる傾向がえられた場合は云々というところで、そうですね、前段のところろうはあまり意識っていうか、言った覚えはない。そうそう、私がコメントしたのもここに含まれてる。
0:08:42	そう。

0:08:45	センター拡充で、ちゃう。
0:08:48	角度を角度各地盤モデルを持つコサクです。私も、この言葉をここで揉んで欲しいわけではなくてですね。
0:08:58	そもそも
0:09:00	先ほどの面談でもう
0:09:04	ちゃんと考え方とか位置付けとかも誤解がないようにっていうお話を、
0:09:11	させていただいててそこの関係でちゃんと言葉を揉んでおくことだと思っんですよ。
0:09:19	今ここでこう書いちゃう等、それがこちらと共通認識の要望だと思われる といけないなと思って、
0:09:27	何か認識、この言葉では、
0:09:31	合いましたっていう感じにはならないなと思ってコメントしただけなので、 今の関係からすると、現状書かないで置いて、
0:09:41	うん。
0:09:43	そうですね。
0:09:44	そんな、
0:09:46	はい、形にしといていただければいいかと思います。
0:10:19	規制庁の武田です。順番に関わることかなと思っんですけれども、
0:10:27	今回岩石コアを、後だけ測定をするというにあたって、この方法というの は、材料減衰、
0:10:37	オーバーシュートした現世を、
0:10:40	測定するための方法であるというわけなんですけれども、既存の試験結 果として、愛知が繰り返し3軸で催事ガンマとかがあるわけですので、 それらの結果との
0:10:51	整合性っていうんでしょうか。
0:10:55	それ、ちょっとお待ちください。
0:11:02	高知県としての設置、先兵失礼しました。
0:11:07	すいません。
0:11:09	繰り返し3軸試験による結果とかとの整合性ですねそういった点で、多 分違った結果が出てきてしまうとは思っんですけれども、テーブルに並 べたときに、同じようなバラ
0:11:24	同じ趣旨で算定した結果に対して、違う結果が出ているものについては それらの要因かそういったものを分析した上で、扱いとかというのを検 討していただければと思います。
0:11:37	でもそういったご認識はよろしいでしょうか。

0:11:41	はい。日本原燃の間瀬でございます。今竹田さんがおっしゃった通りのゴトウは考えておりました物理的な意味の調査ごとのものを考えていった時に当然やっぱり同じ物理的な意味を持つ調査というところもあると思いますのでそういったところの整合性とか、もし違ったときにはある意味、傾向的なところの相対的な分析とかそういったところが必要だというふうなのは思っていました。
0:12:01	今日のご指摘の中の12番とか違うか、この11番ですかね、とかの中でそういったところの対応が必要だというふうに認識をしております。以上です。
0:12:13	はい、規制庁タケダです。わかりました。そこは認識いただいているということで対応を進めていただければと思います。
0:12:20	私の方からは以上です。
0:12:23	その他振り返りについてコメント等はございますでしょうか。
0:12:33	後よろしいでしょうか。
0:12:35	はい。それでは本日のヒアリングとしては以上とさせていただきます。お疲れ様でした。
0:12:40	どうもありがとうございました。

